



うえまつけんいち  
**植松健一** 議員  
(蒼天)

**危険生物への対応について**

**植松** 市民が危険生物から被害を受けたいための対策は。

**環境部長** 市ホームページに、危険生物について掲載するとともに、「広報ふじのみや」11月号に記事を記載しているので参考にしたい。また、熊が目撃された場合には、同報無線による情報提供と現場付近のパトロールの実施など、市民の安全を図っていく。

**植松** 子どもたちに危険生物についての知識、対応を教える機会はあるのか。

**教育長** 子どもたちは、生活科や理科、総合的な学習の時間などで、植物を観察したり、昆虫を捕まえたりして、自然を愛する心情や安全に生活することを学んでいる。家庭や地域で昆虫採取をすることもある。その際、事前にスズメバチのように刺す虫がいることや、チャドクガのようにさわるとかぶれる虫がいることを教え、決してさわらないように注意している。

**植松** 市民が毒性のある危険生物から被害を受けてしまったときの

医療体制は。

**保健福祉部長** 特別な医療体制というものは無い。危険生物の毒によつては、特定の血清や薬剤などによる治療が必要な場合がある。受診した医療機関での対応が困難な場合には、紹介や搬送等により対応可能な医療機関で治療を受けようことになる。

**病院長** マムシの場合は、当院で常時2人分の血清を保管している。ヤマカガシの血清は、群馬県の日本蛇族学術研究所にしかないため、手配をしてからの投与となる。その他、薬剤が必要と判断した場合には、日本中毒情報センターのデータベースをもとに手配することになっている。



▲被害を受けた時は、できるだけ早期に医療機関で診察を受けてほしい



わたなべよしまさ  
**渡辺佳正** 議員  
(日本共産党議員団)

**すべての高齢者と家族に安心の介護生活を**

**渡辺** 住民基本台帳からの抽出と民生委員などの協力で、市内で5千世帯以上いるひとり暮らし高齢者の状況を漏れなく把握するために、ひとり暮らし世帯の高齢者全員を対象とした郵送アンケートなど、市として何ができるかを検討すべきではないか。

**保健福祉部長** 福祉相談センターの利用が爆発的に広がっているが、すべての方の状況を把握できているとは言えない。今後、調査の方法としていろいろ考えていく必要がある。

**渡辺** 特別養護老人ホームに申し込んでも入れない高齢者の状況などについて、ケアマネジャーと情報を共有できているのか。

**保健福祉部長** ケアマネジャーでも対応困難な事例については、市も関与して問題の解決にあたっている。

**渡辺** ケアマネジャーとの情報共有が十分にできているとは言えない。経済的な問題や家族の問題な

ど処遇困難なケースの状況把握に、市は一層頑張つてほしい。

**国際的なウォーキング大会の開催を**

**渡辺** 東海自然歩道・富士山自然休養林・歩く博物館など、ウォーキングの資源に恵まれた富士宮で、ウォーキングをまちづくりの中心に位置づけて、富士山麓で国際的なウォーキング大会の開催を計画したらどうか。

**市長** ウォーキングのまちとしての位置づけは大事。全国的な大会の実施にはいろいろ課題があるが、市の活性化や経済波及効果など多くのメリットがあるので、なるべく早く前に進めていきたい。



▲ウォーキングの人たちでにぎわう田貫湖